

東京社会福祉士会 ニュース



No.235
January 2017



その一歩から始めよう。

—— 2017年、年頭にあたって

公益社団法人東京社会福祉士会会長 大輪典子

新年あけましておめでとうございます。

公益社団法人としての東京社会福祉士会は、3期・5年目を迎えます。その間、2015年に「法人理念」を制定し、今年度はその具現化を目指して6つの重点施策を推進してまいりました。

①事業実践と調査研究との連携による新たな事業の開発。センター全体会議等の開催により、各委員会、各事業センター等様々な視点を持つ委員会と各種事業との連携を図り、組織づくりを行ってまいりました。

②ソーシャルワーカーデー・イベントと実践研究大会の同時開催。350名余の参加があり、研究成果や先進的取組みの発信の場にとの期待に応えました。

③社会福祉の向上への寄与。社会福祉士としての成年後見実践に基づいた「社会福祉士がつくる身上監護ハンドブック2016」を発刊しました。

④戦略的広報の推進。ホームページを一新し、10月からは新しい広報誌をお届けしています。

また、社会福祉士と社会福祉士会について「気づいてもらい、興味を持ってもらい、共感してもらおう」ための取組みとして、当会独自のロゴマークを作成し、印刷物、ホームページ、名刺、封筒等への適用を展開し始めたところです。

⑤モラル徹底に向けた取組みの強化。倫理研修は基礎研修Ⅰなどで実践に基づく形で内容を見直しました。

⑥スーパーバイザーの養成と人材バンクの構築。認定社会福祉士養成に必要なスーパーバイザーとして13名を日本社会福祉士会の養成研修に推薦するとともに、スーパービジョン、成年後見監督人のガイドライン作成、刑事司法ソーシャルワーカーの育成に注力してまいりました。

さて、2017年度は、新体制になります。この6つを柱にして、これまで続けてきた事業を行うとともに、未成年後見制度など新たな取組みにも期待するところです。

私たち東京社会福祉士会は、相模原事件を受けて、「私たちの誓い」を発信いたしました。今回の事件を風化させず、二度とこのような事件を起こさないために、これから何を行い、何を伝えるのか、考え続け、実践し続けること、決してあきらめず、努力し続けることを私たちは誓いました。果てしない道のりであっても、その一歩から始めていきたいと思えます。

本年も事務局、役員一同、会員の皆様方とともに歩みを進めていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※目次は2頁にあります

【一億総活躍社会】 就労支援の最前線から緊急提言

一人ひとりに丁寧な雇用を 就労支援はソーシャルアクション

政府が“究極の成長戦略”として目下推し進めている「ニッポン一億総活躍プラン」は、2017年度予算を通じていよいよ、①名目GDP600兆円、②希望出生率1.8、③介護離職ゼロの三大目標の実現に向け、本格的に動き出すことになる。

そもそも一億総活躍社会とは、同プランの定義によれば「女性も男性も、お年寄りも若者も、一度失敗を経験した方も、障害や難病のある方も、家庭で、職場で、地域で、あらゆる場で、誰もが活躍できる、いわば全員参加型の社会」であるとのことだ。しかし、現実には皆が皆、“活躍”できているわけではない。なぜなら、それを阻む「壁」があるから。それなら「壁」を取り除いてしまおう、そうすれば皆が活躍でき、経済成長を続けられて、人口減少にブレーキがかけられる——というのがプランの粗々の説明である。

だが、壁は本当に取り除けるのか。新たに厄介な壁をつくってしまうということはないのか。副作用で必要な“囲い”を取っ払ってしまうということはないのか。

プランには「障害者、難病患者、がん患者等の活躍支援」という項目がメニューの一つに掲げられている。しかし活躍と言えど、実質的に「就労」と同義で、働くことのできない人が社会的にオミットされてしまうことはないのか。数値目標とインセンティブ（政策誘導）によって、結果に結びつきやすい人ばかり就労支援サービスに囲い込まれ、結びつきにくい人には必要なサービスが届かないなどの歪みが生じることはないのか。

文句のつけようのない美文の閣議決定文書は、ひとたび施策となって立ち現れたときに本来の姿になる。光あれば影あり、少なからず副作用も弊害もある。許容されるものもあれば、そうでないものもある。

産業社会は資本の論理で動く。ソーシャルワークの視点とは、本来相容れない。両者がせめぎ合い、あるいは協業する“波打ち際”に、「就労支援」は位置している。

そこで本誌は、就労支援の最前線からソーシャルワークの視点でみた現状と課題、一億総活躍の施策推進にあたって「モノ申さなければならぬこと」を、当会就労支援委員会の全面的協力により、「特別座談会」という形で問題提起することとした。

Contents

2017年、年頭にあたって——会長 大輪典子……………	1	情報ファイル（地区会／センター・委員会からの告知）…	30
【一億総活躍社会】 就労支援の最前線から緊急提言……………	2	（処分事案）……………	31
当会も実施！「障害者優先調達」を通じた社会参加促進…	10	事務局から①年会費の引き落としについて……………	33
SWの実践力—SWデー「実践研究」「ワークショップ」から…	13	事務局から②ホームページの使い方……………	34
受験学習会—ピンポイントの知を伝える“匠”の5日間…	19	事務局から③ロゴマークについて……………	36
若手不足の進むニッポン—SW志望の学生からみた「福祉」…	24	インタビュー：ロゴマーク誕生秘話……………	38
ファシリテーション入門講座—今日から使える実践スキル…	26	当会ロゴマーク、決定！／編集後記……………	40
Topics：東京都と「復興まちづくり支援協定」を締結…	29		

当会ロゴマーク、決定!!

認知度アップへの一手 —— コンセプトは「ほっ。」

すでにご案内のとおり、社会福祉士及び当会の認知度アップへ向けて、ロゴマーク制定の検討を進めてまいりましたが、このたび、平成28年度第2回理事会（10月8日）にて下記の通り決定しました。

当会のことを、優しく温かみのある印象とともに認知・記憶いただけるように、細部まで意匠を凝らしてデザインされたものです。今後、印刷物、ホームページ、名刺・封筒からチームウェアに至るまで、本ロゴマークを使用してまいります。（36頁に続く。38頁にインタビュー記事）

① 正式名称シンボルロゴセット／横組み



シンボル（マーク）は、ほっとする「安堵の吐息」をモチーフにシンボライズしています。

ロゴタイプ（書体）は、シンボルマークと調和し、かつ、識別性・可読性が高く維持されるよう、「フトコロ（空間）」を広く持たせたモダンなゴシック系書体を使用しています。

② 略称シンボルロゴセット／横組み



本ロゴマークは、「私たちは公益を目的とする社会福祉士の団体として、豊かな地域生活の実現のため、責任と誇りをもって『より添い、ともに悩み、育み、創り出す』ソーシャルワーク実践を行う」という当会の組織理念を咀嚼し、視覚化したもので、「不安や困りごとを抱えた方に「ほっ」としてもらえるよう力を尽くします。それが社会福祉士の使命です」というメッセージをさりげなくも、力強く訴えていこうとするものです。

なお、ロゴマークはさまざまな用途に使えるように14パターン用意していますが、ここでは紙幅の関係で2パターンのみご紹介しております（ホームページに全パターンを公開しています）。また、名刺に使用する場合の注意事項については本誌37頁に掲載しておりますので、ご参照ください。

編集後記

▽今号は会長に無理を言って、表紙を「4色」で出させていただきました。1年を通して「ハレ」である新年号には、日本晴れの空をあしらってみたかったということ、当会で新たに制定されたロゴマークをフルカラーでお披露目したかったという理由によります。このロゴマーク、実は私、最初見たとき正直ピンと来ませんでした。某事務局長も「こりゃ天狗の鼻だ」などと茶々を入れていました。でも、時間が経つに連れ、なんとも言えない「味わい」が感じられ、今ではすっかりハマっています。制作いただいた森脇さんのお話を載せていますので、ぜひご一読ください（38頁）▽特集では1億総活躍プランに“モノ申して”みました。会場が確保できなくて、喧々譁々の議論を「調理室」でしていただきました。就労支援委員会の皆さま、鍋も用意せず、すみませんでした。

（広報推進本部編集長：福島敏之）

発行：公益社団法人 東京社会福祉士会
発行人：大輪典子
編集：広報推進本部
印刷：東京都大田福祉工場

お問合せ先



公益社団法人 **東京社会福祉士会**
Tokyo Association of Certified Social Workers

〒170-0005
東京都豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル5階
TEL：03-5944-8466
FAX：03-5944-8467
mail：cswtokyo@tokyo-csw.org
HP：http://www.tokyo-csw.org



ホームページが
ご覧いただけます
QRコード